

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 関西創価高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 576-0063

大阪府交野市寺3丁目20-1

E-mail kansaisoka\_highschool@soka.ed.jp

Website http://www.kansai.soka.ed.jp/highschool/

幼児児童生徒数 男 517名 女子 535名 合計 1052名

幼児・児童・生徒の年齢 16歳～18歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

1973年の開校以来、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との平和の信条を堅持する世界市民の育成に取り組んできた。本校はユネスコスクールとして、ESDに関わる教育を通し、平和に貢献するグローバルリーダーとしての①使命感、②共感力、③問題解決への創造力、の育成を目標とする。

そのため、ESDに関わる「環境・開発・人権・平和」の4分野を取り上げ、全校生徒が数人のチームに分かれ、地球的課題の解決方法を探る探究型総合学習 GRIT (Global Research & Inquiry Time)と、大学教授や専門家による地球的課題を学ぶ基礎講座 UP (University Partnership) クラスを25回開講した。

なお、「第64回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」では大阪1位となり、全国大会に出場を果たすなど生徒の意識は大きく変容した。

### ① 環境教育に関わる取り組み

GRITの時間において、世界の環境問題を学習。加えて自然豊かな本校のキャンパスを10のエリアに分け、池の水質調査や植物の生態や分布などフィールドワークを実施。また地域の環境改善をめざし、蛍の育成にも挑戦した。

## ② 開発教育に関わる取り組み

高校3年のGRITにおいて、「ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築」をテーマに学年348名全員による模擬国連を実施。数名が1国の大使となり、92カ国が一同に集まり国連総会を行った。生徒たちは担当国について徹底してリサーチし、自国の利益は当然のことながら、世界の視点から問題解決すべき事を学び、食の課題を探究した。1・2年生ではSDGsやフェアトレードを学び、ウルグアイのムヒカ元大統領のスピーチを通し開発に必要な心も学んだ。

## ③ 人権教育に係わる取り組み

世界の人権問題を調べ、ポスター発表会を行った。また身近な問題として「いじめといじり」をテーマにディスカッションを行った。またUPクラスにおいて大学教授より3回にわたり「人権と自由」について特別講義を行って頂き、世界人権宣言も含め、深い学びとなった。GRITでは多くのチームが「人権」に関わる問題を取り上げ、その実態と対策を発表するなど、生徒の意識は大きく向上した。

## ④ 平和教育に係わる取り組み

広島でのフィールドスタディツアーの取り組みとして「核廃絶署名」を最寄りの駅やスーパー前で実施。さらに平和意識調査を友人や一般人を対象に行った。その上で核兵器の現在や広島長崎の被爆の実態についてリサーチし、「核・軍縮シミュレーションゲーム」など行い、平和と核廃絶への意識を高めた。生徒が主体となって、9月8日には原水爆禁止への全校集会を開催した。



① キャンパス環境フィールドワーク



② ゼロハンガーをめざして 学年模擬国連



③ GRITでLGBTについて研究成果を発表



④ 原水爆禁止へ 生徒が全校集会を開催

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (核廃絶)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他 (課題に直面している人々に共感する力)	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p><b>書籍</b> 「SDGs 2030年までのゴール (みくに出版)」 「先生のためのアイデアブック (日本協同教育学会)」 「学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション (後藤芳文・伊藤史織・登本洋子著、玉川大学出版部)」</p> <p><b>ウェブサイト</b> <a href="http://www.nhk.or.jp/eco-channel/">http://www.nhk.or.jp/eco-channel/</a> (NHK エコチャンネル) <a href="http://www.eic.or.jp/">http://www.eic.or.jp/</a> (EIC ネット) <a href="http://www.unic.or.jp/">http://www.unic.or.jp/</a> (国連広報センター) <a href="http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home.html">http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home.html</a> (UNDP 駐日代表部) <a href="http://www.unicef.or.jp/">http://www.unicef.or.jp/</a> (日本ユニセフ協会) <a href="http://www.savechildren.or.jp/">http://www.savechildren.or.jp/</a> (セーブ・ザ・チルドレン JAPAN) <a href="http://www.amnesty.or.jp/">http://www.amnesty.or.jp/</a> (アムネスティ日本) <a href="http://www.hurights.or.jp/japan/">http://www.hurights.or.jp/japan/</a> (ヒューマンライツ大阪) <a href="http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?lang=ja">http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?lang=ja</a> (広島平和メディアセンター) <a href="https://www.earthkam.org/">https://www.earthkam.org/</a> (Sally Ride EarthKAM@Space Camp)</p>
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

探究型総合学習 GRIT として、「環境・開発・人権・平和」に関わる授業を土曜日に行っている。地球的課題の解決方法をチームで探究する中で、地球の裏側の出来事にも知的好奇心を持ち、また当事者意識をもち関わっていこうとする心を育み、平和に貢献しようとする使命感、共感力、問題解決への創造力を身に付けている。

教材は教員のチームが開発したオリジナルであり、その全てがアクティブラーニングである。GRIT は全教員が担当するので、GRIT で使用するジグソー法、ポスターセッション、ディスカッション、協働学習、ルーブリック評価等の教育手法は一般教科の授業にも応用され、GRIT 内での ESD の学びも多くの教科の授業でも取り上げられ、相乗効果をもって、学校全体として ESD の学びが進められている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校長のリーダーシップのもと、ユネスコスクール委員会を毎月開催。希望する教員による委員会には専任教員 54 名中 30 名が参加しており、各学年での ESD 推進を担っている。

新たな教材については、委員会で検討したものを学年会や職員会議で share し、実際に学年クラスで授業した後に、改善点については学年の委員がユネスコスクール委員会にもちより、PDCA を回している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

探究型総合学習 GRIT については、生徒自身によるルーブリック評価、また友人から、教員からのルーブリック評価を行い検証している。加えてその内容の充実度、取り組む姿勢等、定期的にアンケート調査を実施している。一番の成果は生徒の意識の変容である。

本校は日本ユネスコ連盟協会顧問の米田伸次先生より常々ご指導を賜っており、地域とのつながりや貢献、様々な考えを持つ他校の高校生との交流経験などいくつもの課題をご指摘頂き、取り組んでいるところである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

随時ホームページにおいて世界に発信しているが、地元である交野市の環境フェスタにも参加し地元にも広くその活動を発信している。また「世界津波の日」高校生サミットにも出場し、防災意識の啓蒙に取り組む本校での研究を紹介した。2017年には交野市長を招き、平和に取り組むNPOの研究や広島フィールドワークの様子を報告した。そのことがきっかけとなり、交野市在住の戦争の語り部の方々との交流も始まった。また本校で養殖している蛸も一般市民の方に公開し大変に喜ばれた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「開発・人権・平和」については創価大学と、「環境」については京都大学と提携し、地球的課題を学ぶ基礎講座としてUP(University Partnership)クラスを毎週開催した。これには、開発分野で世界を舞台に活躍されている(株)タナカバナナ様など一般企業の方やNPOの皆さんにもご協力頂き、多彩な分野で学びを深めることができた。  
模擬国連の前にはJICA 関西より8名の皆さんにご来校頂き、高校3年生の各クラスでレクチャーならびにアドバイスをいただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

2017年にユネスコスクールに加盟した本校はまだネットワークの構築を始めたばかりであるが、昨年より仙台二華中学高等学校との交流を開始。本校が東北でのフィールドスタディツアーの際に訪問し、お互いの取り組みをプレゼンしている。これまで積み上げてこられた探究活動に学ぶべき点が多く、今後は、生徒の往来が出来るエリアでのネットワーク、インターネットを利用した世界中のユネスコスクールとの交流を進めたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

まず生徒たちの世界の諸問題についての意識が変わり、82%の生徒が「関心がある」と答え、88%の生徒が世界の平和に貢献したいと答えた。また100%の教員が「GRIT は自分に影響を与えた」と答え、46%の教員が自身の科目でSDGsに触れて授業を行った。協働学習、ポスター発表、ジグソー法などの教授法をESDの学びとともに教科学習にも取り入れ、学ぶ校風が推進された。本校は私学であり多くの地域から生徒が集うが、地元交野市を大切にす意識が高まり、地域に愛される学校を目指している。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 「環境・開発・人権・平和」に関わる探究型総合学習 GRIT では、SDGsの中からコアなテーマを見つけ、数名のチームで行う探究活動をさらに活発にしたい。その集大成である高校3年生による学年模擬国連については、2017年度は「食料の流通」にテーマを絞ったので、2018年度は「消費」に取り組みたい。
- ② UPクラスでは、新たな分野、新たな講師、新たな提携大学等を開拓し、ICTを駆使し海外からも講義をしていただける取り組みを考える。
- ③ 広島・東京・東北のフィールドスタディツアーの参加生徒を増やし、各地で取り組んでいるESDの学びを実際に体験できるようなプログラムを考えたい。
- ④ 地元交野市の中高生とともに核廃絶署名など、「平和」への活動を行う。
- ⑤ 世界のユネスコスクールとのネットワークを活かす取り組みの1つとして、お互いの「環境・開発・人権・平和」に係る意識調査を行いたい。